

エンタテインメントの中の「I」



Miles Davis「TUTU」レコードジャケット（1986）

1980年代から石岡さんは仕事の拠点^{きょてん}をニューヨークに移し、舞台や映画など主にエンタテインメントの分野で活躍^{かつやく}を続けます。「モダン・ジャズの帝王^{ていおう}」と呼ばれたマイルス・デイヴィスのアルバム「TUTU」のジャケットデザインでグラミー賞を、フランシス・コッポラ^{かん とく}監督の映画「ドラキュラ」の衣装デザインでアカデミー賞を受賞するなど、国際的な評価を得ました。異なる文化や価値観の中にあっても変わることなく貫かれた石岡さんの「I」デザイン。それは、単なるエゴ（自我）ではなく、他者とのコラボレーションの中で鍛えられ、磨きあげられた「ほんとうの“自分力”」でした。

「Iデザイン」って何だろう？

あなたが考える「ほんとうの“自分力”」とは？

MEMO

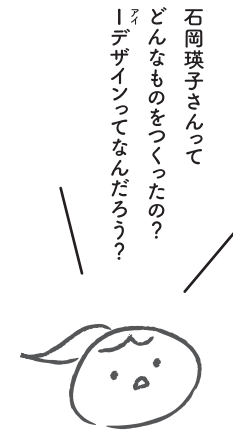
印象に残った作品や
石岡さんの言葉…
自由にメモしてね！



鑑賞ガイド

石岡瑛子 I デザイン Eiko Ishioka I design

石岡瑛子^{いし おか えい こ}さん（1938-2012）は、広告をはじめ、舞台美術、衣装^{い しょう}デザインなど、表現のジャンルを越えて世界的に活躍したデザイナーです。この展覧会では、主に1960年代から80年代に、石岡さんが手がけた広告の仕事を中心に、400点を超える作品を展示しています。



© Kazumi Kurigami 1983

一つの広告をつくるためには、たくさんの人の力が必要です。広告の依頼主（クライアント）、写真や映像を撮影する人、モデルとなる人、キャッチコピーをつくる人、イラストレーションを描く人……。石岡さんの仕事は、こうしたさまざまな立場の、さまざまな個性をぶつけ合い、融合^{ゆうごう}させて、一つの広告にまとめあげることでした。

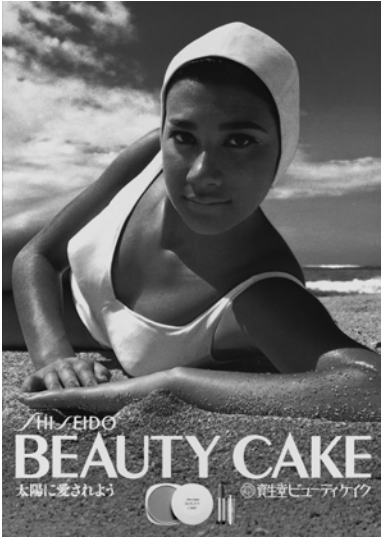
広告をつくる時、多くの作り手は、依頼主の注文に寄りそう表現を目指します。しかし、石岡さんはまず、自分が何を主張したいのかということをスタートラインに置きました。強力な表現を生み出すためには、核となる「I＝私^{アイ}」の存在が不可欠だったからです。石岡さんの「I＝私」は、たくさんのプロフェッショナルたちとの協働作業の中で、刺激され、鍛えられ、磨きぬかれていきました。

石岡さんが手がけた広告からは、石岡さんの声が聞こえてくるようです。
さあ、圧倒的なパワーを放つ、石岡瑛子の世界に飛び込んでみましょう！



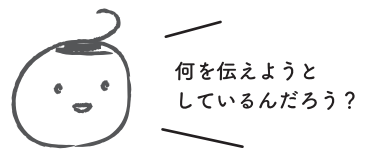
I デザインのはじまり

大学を卒業し、資生堂宣伝部に就職した石岡さん。社会で働く女性がまだ少なかった時代、女性向けの化粧品の広告も、そのほとんどが男性デザイナーの手によってつくられていました。石岡さんは、それまでの広告に描かれてきた女性たちが、血のかよわない人形のような美人ばかりであることに疑問を抱き、そうした美の基準をくつがえすイメージを追求。健康的で生命力にあふれ、相手を見返す意志的なまなざしを持った新しい女性像を打ち出し、大きな反響を得ました。



「太陽に愛されよう 資生堂ビューティケイク」
資生堂ポスター（1966）

I 広告の中の



「あゝ原点。」 PARCO ポスター（1977）

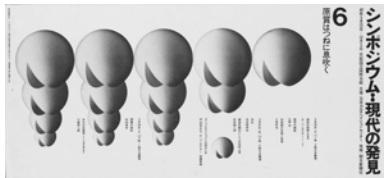
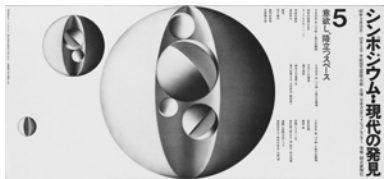
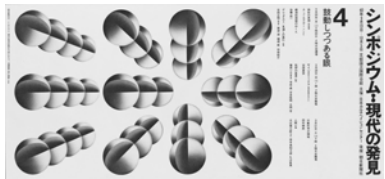
「モデルだって顔だけじゃダメなんだ。」「裸を見るな。裸になれ。」「鶯は誰にも媚びずホーホケキョ」……これらはいったい、何を宣伝しているのでしょうか？
資生堂を退社し、フリーランスとなった石岡さんの前に訪れたのが、開業間もない商業施設パルコとの出会でした。石岡さんが任されたのは、広告を通じて、パルコとはいったい何者であるのか、その企業の顔や性格をつくりあげる仕事。デザイナーは依頼主と観客との間で、単なる技術者にとどまるのではなく、世の中に対する一人の発言者でなければならない、と考えていた石岡さんは、新しい時代に、自分の考えと価値観をもって生きようとする人々に向けて、「私」の主張を反映した挑戦的な広告を次々と生み出し、センセーションを巻き起こしました。

あなたがいちばん心に残った広告は何ですか？

それはなぜ？

I のかたちとは？

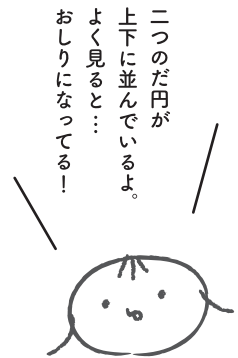
石岡さんがつくりだすかたちの特徴のひとつに、人間のからだの美しさに対する強い関心が挙げられます。一方で若い頃には、幾何学的な図形のデザインにも熱心に取り組んでいました。石岡さんの出世作ともいえる「シンポジウム：現代の発見」（9点組）では、球体、立方体、三角すいが登場し、生命力にあふれた力強いイメージを生んでいます。やがて、石岡さんの心の奥底で、有機的なかたち（肉体）と無機的なかたち（幾何学図形）が組み合わさり、彼女ならではの美の感性が育まれたことで、「POWER NOW」（1968）や「NEW MUSIC MEDIA」（1974）といった名作ポスターが誕生しました。



シンポジウム：現代の発見 4,5,6
日宣美賞受賞作品（1965）



「NEW MUSIC MEDIA」音楽祭ポスター（1974）



作品の中から気になるかたちをさがして描いてみよう！

I ブックデザインと

広告づくりのかたわら、石岡さんはブックデザインも多く手がけています。石岡さんは本を「肉体」と考え、表紙やカバーといった外側の「衣」だけでなく、判型（サイズ）や紙質、活字の選択、文字組みやレイアウトといった「骨組や筋肉や皮膚」まで、一からつくり上げることを理想としていました。ときには企画や編集にまでたずさわり、作品集のブックデザインを手がける際には、作家本人のもとを訪れて、みずからインタビューを行うなど、徹底的に中身づくりにこだわりました。